

御來示ノ通取計ハレ差支無シ但シ今次引上ケヲ見タル雜貨
關稅率ノ調整ニ付(1)貴電（移牒第三五四號）三末尾雜貨從

量稅ニ關スル貴官申入レニ對スル「ボ」ノ陳辯中「日本側
研究ノ結果印度側ニ於テ果シテ夫レ丈ケノ保護ヲ加フルノ
必要ナキコトヲ「コンヴィンス」セラルニ於テハ之ヲ考

慮スヘシ」トノ趣旨竝貴電（移牒第三七一號）

(一)「ボ」ノ私見タル「印度側トシテハ何等日本品ノ輸入ヲ
禁止スル意圖ヲ有スルモノニアラズ」以下適當ナル競爭

*事項編注

大藏省財政史室所蔵史料より補填・採録した文書に付されている移牒番号（移牒第〇〇〇號）は、日印会商に關し外務省より回
覧された文書に大藏省側が付したものである。

上ノ「マージン」ハ之ヲ殘シタル積リナリ迄及「但シ本
來日本トノ貿易ヲ阻害セス以下適當ノ考慮ヲ惜ム次第ニ
非ス迄」ノ趣旨ヲ前記貴電（移牒第三七六號）ノ趣旨ト
一括シ御來示ノ議事錄ナリ又ハ右雜貨ニ關スル部分ノミ
ヲ切離シ其趣旨ヲ貴電（移牒第三七四號）冒頭當方書面
ニ對スル印度側回答中ニ記載セシムルナリ何等力書キ物
ニ殘ス様可然御措置アリタシ

~~~~~

## 十 雜 件

### 1 一般問題

596 昭和8年3月3日 内田外務大臣より  
在英國松平大使宛（電報）

英國の武器輸出禁止措置に關連して報じられ

て いる 松 平 大 使 召還 説 につ いて

本 省 3月3日後6時30分発

第二四号

二日東京朝日ハ大見出シヲ以テ外務當局ニ於テハ最近英國

ノ極東問題ニ對スル反日的态度ニ憤激シ二十七日「サイモン」外相カ下院ニ於テ為シタル演説ヲ不満トスル結果貴使

召還説有力ニ唱ヘラレツツアル旨ノ記事ヲ掲ケタルカ右ハ

外務省ノ関スル限り無根ニシテ今回ノ英國ノ武器輸出禁止  
カ日本ノミニ適用アルモノト誤解シタル為ナリト認メラル  
ル處帝國政府トシテ今回ノ英國ノ措置ニ對シテハ右カ一般

軍需品ニ對スル禁輸若ハ何等カ我方ニ對スル經濟的制裁ノ  
十 雜 件

端緒ヲ開クコトト為ラサル以上基儘ニ放出シ差支ヘナキ意  
嚮ニテ從テ貴使召還ノ如キハ全ク考慮シ居ラサル次第ナリ  
此種記事ハ朝日ノミニ止ルモ該記事ハ貴方若ハ貴任國政府  
側ヘモ傳ハリ居ルヤモ計ラレサルニ付為念眞相電報ス

~~~~~  
597 昭和8年4月12日 内田外務大臣より
斎藤内閣總理大臣宛

日蘭仲裁裁判條約の締結に關し閣議請議について

付記一 作成日、作成局課不明

「日蘭仲裁調停條約締結ニ關スル内閣法制局、
陸、海、司三省トノ打合顛末」

二 四月二十日付内田外務大臣より斎藤内閣總理
大臣宛公信条二普通第一九六号

日蘭仲裁裁判條約の署名調印について

條二機密第一六九號

昭和八年四月十二日

外務大臣伯爵 内田 康哉〔印〕

内閣總理大臣子爵 齋藤 實殿

日本國和蘭國間調停及仲裁裁判條約締結方二

關シ閣議決定請議ノ件

調停及仲裁裁判制度ハ國際紛争ノ平和的處理方法トシテ既ニ相當ノ歴史ヲ有シ近年ニ到リ顯著ナル發達ヲ遂ケ就中歐米諸國間ニ於テハ之ニ關シ條約ノ締結セラルモノ極テ多ク其ノ制度ノ内容モ漸次周密且義務的ノモノトナリ居ル現狀ニ有之帝國ニ於テハ明治四十一年「アメリカ」合衆國トノ間ニ仲裁裁判條約ヲ締結シ右ハ數次更新セラレテ昭和三年八月二十三日迄存續シテ失效セルガ現在有效ニ存在シ居ルモノハ大正十四年瑞西國トノ間ニ締結シタル司法的解決條約ノミナル處從來帝國政府ハ米國政府及蘭國政府ヨリ調停及仲裁裁判ニ關シ正式ニ條約締結ノ提議ヲ受ケ又右以外ノ數國政府當局ヨリモ非公式ノ照會ニ接シ居リ殊ニ蘭國政府ハ大正十四年以來極テ熱心ニ本件條約締結方ノ希望ヲ披瀝シ居リ内交渉モ多少進行シ居リタルノミナラス滿洲事變ヲ轉機トスル帝國ノ國際的地位ニ鑑ミ和蘭國ト交渉懸案中ナル仲裁裁判條約ノ成立ヲ促進スルノ必要ナルヲ惟ヒ客年

一、調停 記

(イ)調停ニ付託スヘキ事件ハ日蘭間ニ生スヘキ一切ノ紛争ト爲スコト

(ロ)事件ヲ調停ニ付託スルハ各場合ニ於テ當事國ノ双方力共ニ通常ノ外交手段ノ效ナキヲ認メタル後ナルヲ要スルコト

(ハ)事件ヲ調停ニ付託スルニハ右ニ關シ當事國間ニ合意成立スルヲ原則的ニ必要トセス當事國一方ノミノ請求ニ依リ之ヲ行ヒ得ルコトヲ認ムルコト

(二)調停機關トシテ條約實施後速ニ常設調停委員會ヲ設立シ其ノ構成ハ當事國間ニ公平ヲ期シ得ヘキモノト爲ス

コト

(ホ)調停手續ニ付スル期間ハ長キニ失セサルモノト爲スコト

(ヘ)常設調停委員會ノ爲スヘキ提案又ハ報告ハ何等當事國ト

ノ加盟スル同裁判所規程ニ據ルヘク又紛爭ガ仲裁裁判所ニ付託セラルル場合ニハ其ノ裁判手續ニ付特ニ兩國間ニ定ムルコトナキトキハ千九百七年ノ國際紛争平和的處理ニ關スル條約ノ規定ニ依ルモノトス

(ホ)當事國ノ意見不一致ノ爲特別取極ノ締結力不成功ニ終ル場合ニハ其儘トシテ更ラニ進シテ特別ノ手段ヲ取ラサルモノトス從テ斯ル場合ニ第三者ノ介入ヲ認メ其ノ裁定ヲ不可避ト爲スカ如キ規定ハ之ヲ受諾セサルコト

三、仲裁裁判

(イ)仲裁裁判ニ付託スヘキ事件ハ各場合ニ付當事國双方力共ニ法律的紛争ト認メタルモノニ限ルコト

(ロ)事件ヲ仲裁裁判ニ付託スルハ各場合ニ於テ當事國ノ双方力共ニ通常ノ外交手段ノ效ナキヲ認メタル後ナルヲ要スルコト

(ハ)仲裁裁判機關ハ常設國際司法裁判所又ハ當事國ノ合意

ニ依リ各場合ニ構成セラルヘキ仲裁裁判所ノ二者中ノ一トシ右選擇ハ當事國ノ合意ヲ以テ定メ得ルモノト爲スコト

(イ)事件ヲ仲裁裁判ニ付託スルニハ豫メ解決ヲ求ムヘキ紛

争ノ内容、仲裁裁判機關、其ノ他ノ條件ヲ定ムル

特別取極ノ締結ヲ必要ト爲スコト但シ紛争ガ國際司法裁判所ニ付託セラルル場合ハ其ノ裁判手續ハ日蘭兩國

十月在蘭松永公使ヲシテ更ラニ非公式交渉ヲ開始セシメタル處本年三月齋藤公使新任ニ際シ蘭國外務大臣ヨリ其ノ在任中（本年四月下旬迄）ニ調停ヲ見度旨申出アリ種々私的意見ヲ交換セル結果最近大体意見一致ヲ見ルニ至リタルニ付此ノ際左記大綱ノ下ニ蘭國政府ト正式交渉ヲ開始シ調停及仲裁裁判ニ關スル條約ヲ締結スルコト致度右閣議決定相成度此段及請議候也

(付記一)

日蘭仲裁調停條約締結ニ關スル内閣法制局、
陸、海、司三省トノ打合顛末

一、四月十三日本件條約締結大方針ヲ決定スル爲閣議請議案ヲ提出シ翌日閣議ヘ提出方横溝課長ニ依頼シ同日午後法制局ニ於テ方針案ヲ説明ス

二、四月十四日閣議決定但陸相關西旅行中ナリシニ付閣議終了直後請議案寫ヲ陸軍次官へ傳達ス同日午後四時陸軍省原(?)少佐海軍省ヨリ西田中佐、軍令部ヨリ松永大佐ノ來訪ヲ求メ方針案ヲ説明シ假條約案ヲ手交ス原(?)少佐ハ歸省ノ上説明ノ都合アルニ付充分ノ説明ヲ開キ度シトテ聯盟脱退通告直後此ノ種條約ヲ締結スルハ自主外交ノ精神ニ反セスヤトノ質問アリ右ニ對シテハ本條約締結交渉ハ數年前ヨリノ懸案ニテ通商發展ノ上ヨリ見テ此ノ種條約ノ成立ハ有意義ト思考サレ最近其ノ交渉力急ニ進涉シタルモノニシテ聯盟脱退問題トハ何等關聯スルモノニ非スト答へ置キタリ松永大佐ハ「ニユーギニア」島問題モ此ノ種條約ノ締結ハ最モ望マシキ所ナリト極力其ノ成立ニ努ムヘキモノトセリ西田中佐ハ特ニ意

三、四月十四日閣議決定但陸相關西旅行中ナリシニ付閣議終了直後請議案寫ヲ陸軍次官へ傳達ス同日午後四時陸軍省原(?)少佐海軍省ヨリ西田中佐、軍令部ヨリ松永大佐ノ來訪ヲ求メ方針案ヲ説明シ假條約案ヲ手交ス原(?)少佐ハ歸省ノ上説明ノ都合アルニ付充分ノ説明ヲ開キ度シトテ聯盟脱退通告直後此ノ種條約ヲ締結スルハ自主外交ノ精神ニ反セスヤトノ質問アリ右ニ對シテハ本條約締結交渉ハ數年前ヨリノ懸案ニテ通商發展ノ上ヨリ見テ此ノ種條約ノ成立ハ有意義ト思考サレ最近其ノ交渉力急ニ進涉シタルモノニシテ聯盟脱退問題トハ何等關聯スルモノニ非スト答へ置キタリ松永大佐ハ「ニユーギニア」島問題モ此ノ種條約ノ締結ハ最モ望マシキ所ナリト極力其ノ成立ニ努ムヘキモノトセリ西田中佐ハ特ニ意

三、四月十五日假條約案ノ譯文出來上リタルニ付陸海軍係官ニ送付シ置キタリ

四、四月十七日條約原案ハ略々纏リタルニ付法制局ニ持參シ方針案ト對比シ條文ニ付キ説明ヲ爲シタリ唯同日ノ會議ハ正式ノモノトハ做ササルコトセリ陸軍省ヨリ本件條約締結ニ付異議ナキ旨電話回答アリタリ

五、四月十八日和蘭トノ交渉上未決定ノ事項ハ三個トナリタルカ同日閣議ニ於テ内田大臣ハ本件ノ交渉ノ經過ヲ報告シ調印方ヲ訓令スヘキ旨述ヘラレタリ

司法省側ニ於テハ紛争ハ先ツ國內裁判所ニ提起スルノ條項ニ付從來ノ例ヲ引用シ異存アルカ如キ模様ナリシカ右ハ司法權ト條約大權トノ競合問題ニ關スルモノナル如ク上記條項ニ對スル疑問ニハ非サリシヤニ認メラレ仲裁裁判ニ付託スル場合ニハ「コンプロミ」ヲ作成スルヲ要スルモノナレハ何等問題ナシト説明シ唯右「コンプロミ」ノ内容カ司法權ニ關係アルカ如キ場合ニハ其ノ作成ニ際シ司法省ニ協議スヘキハ勿論ナル旨ヲ答へ同省側ハ納得シタリ

六、四月二十日午後二時内田大臣ハ調印済ノ旨上奏セラレタリ

件(付記二)
條二普通第一九六號

昭和八年四月二十日

外務大臣伯爵 内田 康哉〔印〕

編注 本文書は国立公文書館所蔵「公文雜纂・昭和八年、卷二十、外務省」より採録した。
連盟脱退通告後の孤立回避策として日タイ仲
裁裁判條約締結につき上申
(5月17日接受)

598 昭和8年4月22日 在タイ矢田部(保吉)公使より

内田外務大臣宛

連盟脱退通告後の孤立回避策として日タイ仲

裁裁判條約締結につき上申

(5月17日接受)

見ヲ表示セサリキ仲裁又ハ調停手續中兩國力事態ヲ惡化スヘキ措置ヲ採ラストスル條項ニ付キテハ右ハ日蘭ノ戰爭ヲ豫想スルモノナルモ斯ル事態ハ兩國ニ發生スルコトヲ豫想シ得ス又豫想ストスルモ陸軍側ハ余リ交渉ナク主トシテ海軍側ノ關係スルトコロナルカ松永大佐ハ右ニ付本件條約ハ平和的處理ヲ目的トスルニ鑑ミ特ニ戰事行動ヲ採リ得ルノ余地ヲ條約ニ認ムルハ理論上面白カラス必要ノ際ニハ自衛行爲トシテ適當ノ措置ヲ採リ得ルカ故ニ本條項ノ存廢ニ付議論スルノ要ナシトノ意見ヲ述ヘラレタリ、本官ハ蘭國原案ハ少シク強ケレハ目下其ノ緩和方ニ付交渉中ナリト説明シ置キタリ

トシテ海軍側ノ關係スルトコロナルカ松永大佐ハ右ニ付本件條約ハ平和的處理ヲ目的トスルニ鑑ミ特ニ戰事行動ヲ採リ得ルノ余地ヲ條約ニ認ムルハ理論上面白カラス必要ノ際ニハ自衛行爲トシテ適當ノ措置ヲ採リ得ルカ故ニ本條項ノ存廢ニ付議論スルノ要ナシトノ意見ヲ述ヘラレタリ、本官ハ蘭國原案ハ少シク強ケレハ目下其ノ緩和方ニ付交渉中ナリト説明シ置キタリ

十 雜 件(付記二)
條二普通第一九六號

昭和八年四月二十日

外務大臣伯爵 内田 康哉〔印〕

在暹羅國

特命全權公使 矢田部 保吉〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

日暹仲裁々判條約締結方提議ニ關スル件

本件ニ關シテハ曩ニ昭和四年十二月七日附拙信機密公第一三〇號ヲ以テ稟請スルトコロアリタルニ對シ翌五年五月六日附貴信條二機密第一六號ヲ以テ帝國政府ニ於テハ仲裁々判及調停條約締結ニ關スル一般方針考究中ナルヲ以テ右決定ヲ俟チテ更ニ何分ノ儀回訓スベキ旨御回示相成居レル處其後右ニ就テハ如何御決定アリタル次第ナリヤ本使ニ於テハ日暹兩國ノ親善増進竝我對暹經濟的發展ノ見地ヨリ兩國間仲裁裁判條約締結ノ提議ヲ爲スコトヲ有益トスルノ意見ヲ依然抱懷スルノミナラス最近ノ事態ハ大ニ其ノ必要ヲスマ感セシムルモノアリ且ツ之レガ提議ノ機會熟シツツアルヲ信スルモノナルニ付テハ茲ニ重ネテ卑見左ノ通申進ス從來帝國政府ガ仲裁々判條約締結ニ對シテ若干ノ躊躇ヲ示シ彼ノ所謂選擇條項ノ如キニアリテモ聯盟常任理事國ノ全部ノ參加ニ拘ラス帝國ノミ久シク加入ヲ差控ヘテ今日ニ至リ居リ其ノ事由ハ茲ニ敍説ノ要ナシト雖右ノ如キハ決シ

南洋ノ大市場ト其ノ無盡藏ナル物資トハ帝國ノ生存ト發展ニ至大ノ關係ナキ能ハス而シテ現在及將來ニ於ケル帝國ノ經濟的活動ノ一大舞臺タル此ノ南洋ノ大地域ガ悉ク歐米諸國ノ屬領ナラザルナキ間ニ於テ、暹羅ガ唯一ノ獨立國タルノ地位ヲ維持セルノ事實ハ帝國ノ南進國是ニ對シ重要ナル意義ヲ有スルモノニシテ今後凡百ノ機會ヲ捉ヘテ日暹兩國ノ關係接近ヲ策シ益々其ノ善解ヲ促進スルニ努ムルコト實ニ我ガ外政上ノ一大急務タラズンバアラザルナリ

翻ツテ之ヲ暹羅最近ノ動向ニ就キテ觀察スルニ昨夏革命政變勃發シテ立憲君主政體ノ樹立ヲ見タル以來從來上下國民ヲ風靡シタル歐米追隨思潮稍々轉向シテ漸ク再ヒ東隣日本ノ先進文化ニ注意ヲ拂フニ至レルノ傾向アリ例ヘバ曩頃帝國ノ制度ニ則ラムガ爲ニ銳意之レガ研究ニ志シ居レルノ制定ヲ見タル恒久憲法ノ如キモ帝國憲法ヲ參酌シタルノ跡歎カラス或ハ教育及社會施設ノ充實ヲ提倡スルモノハ範ヲ

爾ト欲セザルトヲ間ハス政治經濟文化ノ諸方面ニ亘リテ再ヒ漸次接近ノ度ヲ加フルノ傾向ヲ示シ來レリ之ヲ我方ヨリ見レバ滿洲ガ帝國北門ノ生命線タルト等シク南洋ハ帝國南關ノ生命線ナリト稱スルヲ得ベク我ガ戰略的見地ニ於ケル

件十 雜 南洋ノ地理的地位ハ姑ク之ヲ措クモ數億ノ人口ヲ包含セルルニ東洋ニ於テ相近接セル日暹兩國ノ關係ハ時勢ノ推移ニ伴ヒ今ヤ一轉機ノ秋ニ際會シツツアリ即チ最近兩國間ノ關係ハ兩國朝野ノ意識セルト否トニ拘ラス將又其ノ欲スルト欲セザルトヲ間ハス政治經濟文化ノ諸方面ニ亘リテ再ヒ漸次接近ノ度ヲ加フルノ傾向ヲ示シ來レリ之ヲ我方ヨリ見レバ滿洲ガ帝國北門ノ生命線タルト等シク南洋ハ帝國南關ノ生命線ナリト稱スルヲ得ベク我ガ戰略的見地ニ於ケル

テ帝國政府ガ國際紛爭平和的處理ノ主義ニ反對ナルガ爲ナルニハアラス又帝國今次ノ聯盟脫退ノ如キモ畢竟聯盟ノ現實ニ慊ラザルガ爲メナルノミ聯盟脫退ノ如キモ畢竟聯盟ノ現實ニ維持ト國際紛爭平和的解決ノ主義ニ對シテ挑戰スルモノニアラザルコト勿論ナリト信ス

聯盟脫退後ノ帝國ヲ能ク國際的孤立ノ難境ヨリ匡フベキ所以ノ方策ニ付テハ我政府當局元ヨリ其ノ成算アルヲ疑ハス依テ右ニ關シテ茲ニ蛇足ヲ添フルノ要些カモ之レナシト雖諸外國ノ偏見ト猜疑竝ニ之ニ基ク惡意ノ宣傳ニ對シテハ屢次ノ我ガ浩翰（ホウカ）ナル聲明ヤ萬全ヲ期シタル出先使臣等ノ努力ヤ若クハ代表全權ノ熱烈ナル雄辯機略ノ如キモ能ク十分ニ其ノ效果ヲ收ムル能ハザリシコトハ遺憾ナガラ今次我政府ノ痛切ニ經驗シタル所ナリ去レバ將來帝國ノ地位ト其ノ東洋平和希求ノ國是ヲ世界ニ宣布シ多邊的國際諒解ヲ遂ケテ以テ聯盟脫退後ノ國際政局ニ處セムトスルニ當リテハ關係各國ノ夫々ノ地位利害竝其ノ帝國トノ關係ノ實質如何ヲ檢討シ之ニ適應シテ有效適切ナル積極的方策ヲ考究實施スルコト必要ナリト存ス

日暹兩國ノ間ニ於テハ御承知ノ通り從來曾テ紛議ノ釀成

強チ帝國ニ對スル積極的好意ノ表示ト認ムルコトヲ得スト
雖其ノ背後ニ於テ東洋民族保全ノ自覺ガ國民ノ間ニ萌芽シ
ツツアルニアラザレバ能クスノ如クナルヲ得ベカラザリン
モノト信ス而カモ暹羅ノ棄權ハ偶々國民ノ對日友好感情ニ
更ニ拍車ヲ加ヘタルノ觀アルト同時ニ暹羅ノ態度ニ慊ラザ
ル支那側ヲシテ漸ク日暹離間ノ中傷的宣傳ニ走ラシムルニ
至ルノ契機トナレルハ余儀ナキ次第ナリ御承知ノ通り暹羅
ハ過去ニ於テ歐洲列強殊ニ英佛二國ノ帝國主義的野心ノ對
象トナリ屢次兩國ノ爲ニ其ノ領土ヲ割取セラレ動モスレバ
其ノ獨立ヲスラ脅カサルノ危機ヲ經驗シ來リタルモノニ
シテ今日ニ於テこそ最早其ノ獨立ヲ奪ハルノ危險ヨリ略
ホ脱シ得タルガ如クナリトハ雖尙ホ外國勢力ノ侵漸殊ニ外
國ノ武斷政策ニ對シテ甚大ノ恐怖ヲ去ル能ハザルハ頗ル自
然ナリ暹羅人ノ此ノ心理的弱點コソ實ニ支那側ノ乘スル所
ニシテ即チ彼等ハ彼等ノ以テ侵略的ナリトル帝國ノ對支
對滿政策ハ廳テ日本ガ移シテ之ヲ暹羅ニ施サントスル所ナ
リトノ幻影ヲ暹羅人ノ眼前ニ彷彿セシメンコトヲ努ムルノ
傾向著シカラストセス加之數十年來暹羅ニ於テ政治的經濟
的及文化的ニ多大ノ勢力ヲ扶殖シ來リ現在ニ於テ尙ホ政
府ス所ナカルベカラザルナリ

暹羅ガ英蘭兩國トノ間ニ夫々仲裁々判條約ヲ有スルノ外其
他多數諸國トノ修交通商航海條約中ニ仲裁條項ヲ有スルコ
トハ曾テ報告シ置キタル通ナルガ右等ハ其ノ何レノ側ヨリ
提議セラレタルモノナリシヤニ拘ラス暹羅側ニ於テ最モ之
ヲ歡迎シタルベキハ其ノ國情ニ顧ミ疑ナキ所ニシテ殊ニ歐
米諸國ニ比シテ地理的ニ近接シ將來ノ關係益々密接ヲ加フ
ベキ運命ヲ有スル日本トノ間ニ紛議ノ平和的處理ニ關スル
取極ヲ爲スコトハ暹羅當局ノ大ニ歡迎スル所タルベク而カ
モ之ヲ我方ヨリ見ルモ斯ノ如キ取極ハ動モスレバ日本ノ侵
略的意圖ニ對スル疑心暗鬼ニ惱メル上下識者ノ蒙ヲ啓クニ
至大ノ效果アリ殊ニ支那及歐米諸國ノ惡意ノ離間策ヲシテ
施ニ由ナカラシムル爲メニハ特ニ其ノ必要ナルヲ痛感セ
ザルヲ得ス

日暹兩國間仲裁々判條約ノ如キハ一種ノ國交的裝飾物タ
ルニ過キストノ惑或ハ之レナキニアラザルベシト存セラル
ル處今後帝國ノ對暹羅發展ニ拘ラス右果シテ裝飾物タルニ了

治的ニ壓倒的優勢ノ地位ニ在ル歐米諸國ガ日本ノ對暹羅
ヲ常ニ警戒シ居レルコト勿論ナルガ殊ニ最近ニ於ケル暹羅
人青年ノ覺醒ニ對シテハ渺カラザル恐レヲ爲シツツアルモ
ノノ如ク聯盟ニ於ケル暹羅ノ棄權アリタル以來日本及滿洲
ニ於テ暹羅ニ對スル注意漸ク喚起セラルルニ至リタルコト
ニ關スル斷片的ナル新聞通信ニ付テスラ頗ル神經過敏トナ
リ而シテ歐米勢力ノ前ニ無力ニシテ西洋崇拜ノ先入ニ捉ハ
ルモノ多キ政府當局モ亦只管英米佛等ノ怒ニ觸レザラン
コトヲ之レ努メ是等諸國人中ノ有力ナル顧問等ニ引ズラレ
ツツアルガ如ク看取セラル、歐米諸國側ガ是等顧問ヲ利用
シテ若シ暹羅ニシテ日本ノ勢力伸張ヲ許容スルニ於テハ其
ノ武斷政策ハ結局暹羅ヲ朝鮮滿洲ノ地位ニ陷ルニ至ルベ
シトノ旨ヲ以テ政府當局及宮廷方面ヲ警メツツアルハ疑ヲ
容レザル所ナリ聯盟ニ於ケル暹羅ノ棄權ハ實ハ英佛トシテ
ハ不注意ニ由ル手ヌカリナリシナルベク事後ニ於テ暹羅ノ
舉ニ驚キ其後ノ暹羅ノ動向ニ付特ニ注意ヲ向クルニ至レル
ヤウ見受ケラル
斯ノ如キ情勢ハ帝國ノ南進國是ノ見地ヨリ我外務當局ノ決
シテ看過スベカラザル所ニ屬ス殊ニ最近我對暹羅發展ノ意義
ニ於テモ之ヲ得スル所ナリシヤニ拘ラス暹羅側ニ於テ最モ之
ヲ歡迎シタルベキハ其ノ國情ニ顧ミ疑ナキ所ニシテ殊ニ歐
米諸國ニ比シテ地理的ニ近接シ將來ノ關係益々密接ヲ加フ
ベキ運命ヲ有スル日本トノ間ニ紛議ノ平和的處理ニ關スル
取極ヲ爲スコトハ暹羅當局ノ大ニ歡迎スル所タルベク而カ
モ之ヲ我方ヨリ見ルモ斯ノ如キ取極ハ動モスレバ日本ノ侵
略的意圖ニ對スル疑心暗鬼ニ惱メル上下識者ノ蒙ヲ啓クニ
至大ノ效果アリ殊ニ支那及歐米諸國ノ惡意ノ離間策ヲシテ
施ニ由ナカラシムル爲メニハ特ニ其ノ必要ナルヲ痛感セ
ザルヲ得ス

本信起稿中會々一方ニ於テハ日蘭調停及仲裁々判條約成立
ノ報ニ接シテ帝國ノ對南平和政策ノ具體化ニ對シテ欣快ノ
念禁シ難キモノアルト共ニ他方ニ於テハ印通商條約廢棄
スペキ最モ效果的ナル手段タルヲ確信ス

通告ノ報アリ同時ニ帝國ノ國際聯盟脫退ハ諸外國ノ此ノ種措置ニ道義的口實ヲ與ヘ今後更ニ我方ニ不利ナル氣運ヲ馴致スルノ虞レナシトセザルニ付管内一般情勢ノ推移ニ注意

シ日印間ニ發生シタルガ如キ事態ノ續發ヲ未然ニ防止スル

ヤウ盡力方御電訓ニ接シタル處元來暹羅ニ於テハ御承知ノ

通日本ハ政治的ニハ全然無勢力ニシテ經濟上ニ於テモ他ノ

諸外國ト異リ資本的進出皆無ノ現狀ナリ獨り貿易上ニ於テ

ハ最近相當顯著ナル發展ヲ遂ケ歐米品ハ日ニ益々暹羅ノ市

場ヨリ驅逐セラレツツアリ然ルニ今後暹羅國內ニ於テ漸次

諸般ノ產業興隆スルニ至ルベキハ自然ノ趨勢ナル處資本技

術及經驗ニ缺乏セル暹羅ニ於テ其ノ諸般ノ產業ガ現ニ政治

的ニ優勢ナル地位ヲ占ムル歐米人ノ勢力下ニ發達シ行クコ

トヲ座視スルハ日本トシテ到底忍ヒ得ベカラザル所ナリ

有力ナル多數ノ歐米人顧問ガ各自本國ノ背景ノ下ニ暹羅ノ

政府當局ヲ引ズリ居レル今日ノ狀態ノ儘ニシテ推移センカ

將來ニ於ケル日本ノ經濟的勢力扶植ハ其ノ望稀薄ナルノミ

ナラス貿易上ノ地位スラ今日以上ノ進展ヲ期スルコト困難

ニシテ或ハ種々ノ難件壓迫ニ惱マザルベカラザルニ至ルベ

キコト豫想ニ難カラザルナリ去レバ今ニシテ速カニ支那及

歐米諸國ノ竊カニ採ルコトアルベキ離間策ノ禍因ヲ絶チ帝國ニ對スル暹羅國民ノ善解ヲ促シ彼等ノ日本ニ對スル安堵ト信賴ヲ購フノ途ヲ講スルヲ要ス

之ヲ要スルニ帝國對南政策ノ見地ヨリスレバ日暹仲裁々判

條約ノ締結ハ今日其ノ必要極メテ切實ナルモノアリ之レガ

提議ノ遷延ハ暹羅ニ對スル日本ノ地位ヲ漸次不利ニ陥ルル

ニ至ルベシト存セラル至急何分ノ御考慮相仰キ度シ

右稟請ス

599 昭和 8 年 5 月 30 日 在スイス矢田(七太郎)公使より
内田外務大臣宛(電報)

万国議員同盟会議における委任統治問題の取扱いについて

ベルン 5 月 30 日後発 本省 5 月 30 日後着
第三三號

貴電第一八號ニ關シ

議員團會議事務所ニ問合セタル處決議草案第一編及第三編ハ其ノ後字句上ノ修正アリタルモ第二編ハ全部原案通り可

決セラレタル趣回答シ來リタルト共ニ昨二十五日東京聯合

通信ニ依レハ政友會ハ南洋委任統治問題ヲ馬德里會議々題中ヨリ削除方要求スヘク若シ右カ容レラレサル場合ニハ會議ニ參加セサル旨決議セル趣ノ處同議題第四ハ單ニ植民地ニ關スル一般的原則及適用問題ヲ討議スル趣旨ニシテ特ニ南洋委任統治地域ノ討議ヲ目的トスルモノニ非ス尙報告案第二編ハ二十四年「ベルン」會議ノ決議並ニ二十八年「ストックホルム」及三十一年紐育ノ國際法學會ノ討議ニ基キ作成セラレタルモノナルニ付日本側ニ於テモ其ノ趣旨ニ付誤解ナキ様致度來ル會議ニハ日本ノ參加ヲ希望スル旨申越アリタリ

委細郵報ス

(欄外記入)貴電第六五號ニ關シ

(欄外記入)我議員團側ニテハ此際議題ヨリ委任統治問題削除方ヲ壽府事務局ニ交渉スルモ目的ヲ達スルコト困難ナルヘキニ付豫メ中村嘉壽代議士ヨリ其ノ知合ナル「ラング」(議員團會議幹事長)ニ本問題削除方ノ希望ヲ申送リ置キ「マドリッド」ニ於テ會議成立ノ際本問題ノ討議延期方ヲ要求スルコトトシ右聽カレサル場合ニハ會議ノ席上反対意見ヲ述ヘ其ノ票決ニハ反対投票ヲ行フコトシ而シテ會議脱退ノ如キ擧ニハ出テサルコトニ大体方針決定セル模様ナリ 右御参考迄

瑞西ヘ暗送アリタシ

(欄外記入)

600 昭和 8 年 6 月 30 日 在スペイン青木(新)公使宛(電報)

万国議員同盟会議における委任統治問題への

我が方議員団の対応について

本省 6 月 30 日後 4 時 30 分発
内田外務大臣より
在タイ矢田部公使宛(電報)

日タイ条約締結の可能性につきタイ側の意向

確認方訓令

本省 7月11日後3時40分発

第二四号

極秘

昭和四年機密公第一三〇號及本年機密公第八一號貴信ヲ以テ日暹仲裁裁判條約締結方ニ關シ貴見具申アリタル處貴官歸朝前全然貴官限リノ思付トシテ果シテ暹羅國側ニ於テハ我方ト調停及仲裁裁判又ハ其ノ二者中ノ二關スル條約ヲ締結スルノ希望ヲ有スルヤ否ヤ御確メノ上結果回電アリ度尤モ我方ノ此ノ種條約ニ對スル一般方針トシテハ本年四月調印ノ日蘭條約ノ範圍（新嘉坡總領事宛往電第三〇号及國際事情三百五十八号参照）ヲ越ユルヲ得サル次第ナルカ日暹間條約ニ關スル帝國政府ノ方針ハ先方ノ意向ヲ承知シタレ度ニテ之ヲ確定シ度キ所存ナルニ付右御含ノ上措置セラレ度爲念申添フ

602 昭和8年7月26日 在タイ矢田部公使より

内田外務大臣宛

在暹羅國
機密公第一四五號
昭和八年七月廿六日
（8月18日接受）

との会談について

（8月18日接受）

特命全權公使 矢田部 保吉〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

日暹仲裁裁判及調停條約締結方提議ニ關スル件

（欄外記入）
本件ニ關シ貴電御來訓ノ次第有之敬承然ル處外務次官兼外務大臣代理ハ先般來病氣引籠中ニシテ早速會見ノ機會ヲ得難カリシニ付其ノ全快出勤ヲ俟ツ間ニニ、三ノ有力ナル參議ヲ晚餐ニ招待シタル機會ニ國務院方面ノ意向ヲサウンドシタルニ何レモ双手ヲ舉ケテ贊意ヲ表シ居リタリ然ルニ外務大臣代理ハ尙本復ニ至ラス何時ニナレバ出勤シ得ルカモ豫想シ難キ状態ナリシヲ以テ外務省顧問 Prince Varnavaidya 二會見ヲ求メタルニ廿二日朝先方ヨリ來訪シタルニ付貴電御來訓ノ趣旨ヲ體シ大要左ノ意味合ヲ以テ懇談シタリ
日暹兩國締約以來五十年ニ垂ムトスル處其ノ全期間ヲ通シテ兩國ノ親善ヲ阻害スベキ何等紛争ヲ生シタルコトナ

ク關係極メテ親善ニ終始シ來レルハ眞ニ慶賀スベキ所ニシテ斯ノ如キ親善關係ハ將來永久ニ之ヲ維持セザルベカラザルコト勿論ナルガ今後兩國民間及兩國政府間ニ於テ兩國ノ共通利益及相互ノ政策ニ對スル理解ヲ進ムルコトニ依リテ更ニ大ニ之ヲ増進セザルベカラス又増進セラレ得ベキモノナルヲ信ス而シテ本使ノ所見ニ於テハ將來萬一不幸ニシテ兩國間ニ何等紛争ヲ生シタル場合ニ於テ之ガ平和的解決ヲ期スベキ手段ヲ定ムル條約ヲ締結スルコトヲ得バ右ノ目的ヲ達スル上ニ多大ノ貢獻アルベキヲ信ス以上ノ陳述ハ何等本國政府ノ訓令ニ依ルニ非ス全ク本使一個ノ思付ニ過キザル處暹羅政府ニ於テハ帝國政府トノ間ニ仲裁裁判及調停又ハ其ノ二者中ノ二關スル條約ヲ締結スルノ希望ヲ有セラルルヤ否ヤヲ承知スルヲ得バ幸甚ナリ

右ニ對シ殿下ハ本使ノ所見ニ對シ全然同感ノ意ヲ表シ此ノ種條約ノ締結ハ暹羅政府ノ大ニ歡迎スル所ニシテ出來得ル限り各修交國トノ間ニ此ノ種條約ヲ締結センコトヲ以テ政府ノ方針ト爲シ居リ多數諸國トノ通商條約中ニ於テモ仲裁裁判又ハ調停ニ關スル條項ヲ有シ居ル程ナリ日本トノ修交

通商航海條約中ニ同様ノ條項ヲ有セザルハ該條約ハ最モ早く締結セラレタルガ爲ニ外ナラス即チ日暹通商條約成立以後ニ於テ暹羅政府ハ右ノ方針ヲ確立シタルモノニシテ其ノ以後ニ於テ成立シタル條約中ニハ多クハ該條項ヲ有スル次第ナリ右ノ次第ナレバ本件ハ暹羅政府トシテ双手ヲ舉ケテ贊成スベキ所ナルヲ信スルモ尙爲念來週火曜日（廿五日）ノ國務院議ニ附シ其ノ意向ヲ慥ムルコトトスベシト答ヘ外務大臣代理ハ依然病氣引籠中ナルヲ以テ同大臣ヘノ傳達竝院議上程方ハ自分之ヲ取計フベキコトヲ約シタリ
次テ今廿六日豫約ノ通本使同殿下ヲ訪問シタルニ本件ニ關シ左ノ通語リタリ

過日ノ會談ニ於ケル貴見ノ次第ハ之ヲ外務大臣代理及國務院ニ傳ヘタル處本件條約ノ締結ハ暹羅政府ノ最モ歡迎スル所ニシテ帝國政府ヨリ本件提議アルニ於テハ暹羅政府ハ喜シテ之ガ交渉ニ應スル意向ナリ本件條約ノ成立ヲ見ルヲ得バ兩國民ノ善解ヲ增進スル爲精神的効果多大ナルモノアルベキヲ信ス
暹羅政府トシテハ紛争ノ平和的解決ニ關スル手段ノ多カラムコトヲ希望スルモノナルガ故ニ仲裁裁判及調停ノ双

方ニ關スル條約ノ締結ニ至ラムコトヲ希望スルモノナリ
尙明年一月以降皇帝陛下約八ヶ月御外遊ノ豫定ナルガ陸

下御外遊中ト雖本件交渉進捗ニ何等差支アルコトナク只
調印前一應ファイナルテキストヲ御滯在先ヘ送付スルコ

ト丈ハ必要ナルベシ云々

以上ノ次第ニシテ暹羅政府トシテハ本使豫想ノ通本件締約
ノ成立ヲ熱心ニ希望スルモノト認メラルニ付右御諒知ノ
上我提案ニ關シ早速御考慮相成様希望ス尤モ本使外務省顧
問トノ會談ニ於テモ又其他ノ參議トノ會談ニ於テモ條約ノ
内容範圍等ニ關シテハ全ク言及致シ居ラザルニ付其點御含
ミ置アリタク但シ暹羅側トシテハ出來得ル限り廣範圍ニ亘

ル條約ノ成立ヲ希望スベク即チ仲裁裁判又ハ調停ニ附託ス
ベキ紛争ノ性質種類ニ對スル制限ヲ可成輕クシ又應訴義務
及判決又ハ裁定ノ効力ニ付テハ可成嚴格ナル主義ノ採用ヲ
希望スルモノナルヲ信ス

右報告申進ス

追テプリンス、バンヴァイデアハ外務次官、駐英公使等
ニ歷任シ二、三年前退官シテ爾來官立チュラロンコン大
學ニ於テ政治學講座ヲ擔任セリ客月廿日ノ政變ニ際シ招

希望貫徹セリ

往電

第八八號

往電第八七號ニ關シ

マドリッド 10月7日後発
本 省 10月8日前着

第八八號

六日午後本會議ニ於テ小委員會意見通り委任統治ニ關スル
A、B、C、G四項目ヲ議題ヨリ削除スルコトニ決定シ我
希望貫徹セリ

右中村代議士ノ依頼ニ依リ貴衆兩院議長及海軍省へ御傳ヘ
ヲ請フ

~~~~~

604 昭和8年11月6日 在ベルギー佐藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

我が方外交政策に対する各國世論啓發の必要  
性につき意見具申

ブラッセル 11月6日後発

第八三號

帝國ノ聯盟脫退ト同時ニ宣傳事務モ中止ノ觀アリ英佛方面  
ニ付テハ本使承知セサルモ壽府及當地ニ於テハ辛シテ舊時

聘セラレテ機務ニ參劃シ間モナク外務省顧問 (Siamese Adviser in Foreign Affairs) 就任シタルモノナルガ元

來新政府ハ同殿下ヲ外務大臣ニ補任シタキ希望ナレ共憲  
法ニ於テ皇族ノ政治ニ携ハルコトヲ禁スル旨ノ規定アル

ガ爲ニ就任シ得ザル事情アリ依テ現任ノ外務次官ヲ外務

大臣代理ニ任シ實質的ニハ同殿下ガ顧問ノ名ヲ以テ大臣

ノ事ヲ行ヘルモノノ如ク且又同殿下ハ名儀上單ニ外務省  
顧問ナルモ實際上ハ同時ニ國務院及議會ノ政治法律顧問

ノ地位ニ在リテ殿下自身モ Controlling Adviser ナリト

言ヒ居リタリ

(欄外記入)

相手早目ニ着手スルノ要ナキカ

尚和蘭トノ條約ノ成行ニ關係スペキヤ?

603 昭和8年10月7日 在スペイン青木公使より  
広田外務大臣宛(電報)

万國議員同盟會議議題より委任統治問題削除  
との同本會議決議について

本件ニ關シテハ素ヨリ本省ニ於テ目下折角御考究ノ事カト  
存セラルモ帝國政府トシテハ來ルヘキ一九三五年ノ軍縮  
會議ヲ控ヘ居ル此ノ際政治關係ニ於テハ能フ限リ列國ノ誤  
解ヲ解キ以テ軍縮問題ニ關スル我方主張ニ對シ障礙ヲ來サ  
シメサルコトニ全力ヲ盡スヘキハ勿論ノ儀ナレハ今後ハ帝  
國政府ノ對外政策就中對支及對露政策ニ關シテハ帝國政府  
ノ意ノ存スル所ニ付各國輿論ヲ承服セシムルノ措置ヲ講ス  
ヘキノミニナラス滿洲國ニ於ケル治安狀態改善ノ實情ヲ英米  
佛並ニ壽府等重要ナル中心地點ニ於テ遲滯ナク宣傳ヲ行ハ  
シムルコトシ之ニ依リ帝國政府ノ努力ト誠意トヲ豫メ世

認メラルニ付右何等御参考迄卑見申添フ

英、佛及巴里聯盟ニ暗送セリ

~~~~~

2 仏國の南シナ海礁島領有問題

605

昭和8年7月18日

在仏國長岡大使より
内田外務大臣宛(電報)

仏國にシテ南シナ海礁島(新南群島)領有し閲

する仏國雑誌記事にヘント

パリ 7月18日後発

本省 7月19日前着

第三二一號

貴電第一四七號ニ關シ

本件電通ノ電報ハ雑誌「Illustration」七月十五日號(十

三日配達サル雑誌郵送ス)ニ要旨左ノ如キ記事掲載セラレ

タルヲ以テ當地U、P代表者カ打電セルモノノ由ニシテ當

國政府ヨリ正式ノ公表アリタルモノニハ非ス

本件礁島中ニハ水(上)飛行機潛水艦等ノ避難所トシテ適

當ノモノモアル處從來日英米佛蘭ノ何レ(モ)右礁島ニ對

シ主權ヲ確立シタルコト無カリシカ一外國カ同礁島ニヨリ
支那海ノ監視權ヲ行使スルカ如キハ有事ノ際佛國海上交通
ノ爲危險ナルヲ以テ佛國政府ハ之力領有ヲ決シ一九三〇年

件 件

雜 雜

十 十

606

昭和8年7月18日 在仏國長岡大使より
内田外務大臣宛(電報)

仏國の新南群島領有關係雑誌記事に關し外務
省アジア局長に問合セリについて

パリ 7月18日後発

本省 7月19日前着

第三二二號

往電第三二一號ニ關シ

當地U、P代表者ニ問合セタル處十三日「イリュストラシ
オン」ノ記事ニ付當國外務省ニ問合セタルニ其内容ノ「コ
ンファイルマシオン」ヲ得タルニ付打電シタルモノナリト述